

## 宝来山神社

この朱色の神社の起源は 773 年にさかのぼると言われています。宝来山神社の本殿は重要文化財に指定されています。神々が祀られている 4 棟の本殿は、1614 年の創建の際とまったく同じつくりで定期的に建て替えられています。

「宝がやってくる山」という意味の神社の名は、古来よりこの神社が重要な場所にあったことを指し示しているとされています。現在では川の流れが変わっていますが、宝来山神社はかつて川の重要な船着場の近くに位置していたので、多くの物品や貢物が川から山の上の神社へと運ばれました。宝来山神社の縁起の良い名前は招福や財運、商売繁盛を祈る人々を数多く呼び寄せています。

神社の近くに巧みに作られた一連の水路は、宝来山神社が地域に繁栄をもたらすのを助けました。平安時代（794-1185）後期にこの神社がもとの場所から移された際に神社を再建させた文覚上人（1139-1203）によって作られたこれらの水路は、今でも周辺の水田に確実に水流を供給しつづけています。

神社のすぐ前を横切る小道は、かつて南街道という和歌山の町と奈良・大阪を繋ぎ、ひっきりなしに商人や参詣者、そして参勤交代で江戸（現在の東京）と往復する大名行列が行きかう重要な交易路の一部でした。